



長 崎 県
中 小 企 業 家 同 友 会

DOYU

ニュース
21

E-mail jim@nagasaki.doyu.jp
 U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

**「私たち中小企業家が長崎県を牽引していく」
 ～同友会の学びで時代の変化をチャンスに!～**

中同協 第51回 定時総会 in 東京 参加報告

日時：7月4・5日(木・金) 会場：京王プラザホテル

第1分科会

日本は、地域はどうなる!?
 転換期における中小企業の役割は?

～里山資本主義から考える～

(株)日本総合研究所 調査部主席研究員 藻谷 浩介 氏



代表理事 金井 政春

中小企業にとって求人難による人材不足、消費税率アップによる景気の動向など不安がつの中、これからの何らかの道標、ヒントが欲しくて参加しました。藻谷氏の提唱される里山資本主義とは何か?初めての言葉に期待と不安が重なり合いながら報告を聞きました。



お金の循環がすべてを決めることを前提にした経済システム(マネー資本主義)に対して、お金に依存しない経済システムをサブシステムとして構築しようとする考え方。共生と循環再生をキーワードに「ほどよく儲けつつも事業と社会が継続すること」を儲け以上に重視する考え方の方でした。マネー資本主義の特徴的な考え方が「今だけ・自分だけ・お金だけ」と言い少しだけ恥ずかしい気持ちになりました。

「情報分析についてはイメージで判断、皆がやっていることが正しいとのとらえ方が多いようだが、常に事実を数字で確認する必要がある」との報告に私の弱点を突かれた思いになりました。

その後、「中小企業の役割について」をテーマにグループ討論となりました。私が気になった発言を羅列

目次

中同協 第51回 定時総会 in 東京 参加報告	1	中同協関連会議 参加報告	14
各界からの提言	5	入会・交代・復会・交代会員紹介	15
7月例会報告	6	会員活躍	16
ダイバーシティ委員会 第12回例会 開催報告	12	事務局企業訪問	17
第1回 新入社員フォローアップ研修 開催報告	12	理事会報告	18
プライアント(株)(佐世保支部 橋口会員)経営計画発表会 参加報告	13	会員動向・会員数	19
島原支部 企業訪問 in (有)島原種苗 参加報告	13	9月例会案内	20



しますと、「大企業の植民地ビジネスから脱却し地域でやるべきこと、地域でやれることは地域企業がやるべきだ」、「これからは同友会の時代になるのではないか、馬鹿正直でお金持ちになれない同友会企業だが、同友会理念を学び経営していると必ずチャンスが来る

はずだ」。人材確保については「新卒、障がい者、外国人を含め人を生かす経営の学びを基に経営者や幹部だけでなく社員全員で取り組むべきだ」、「安易に受け入れるのではなく最後まで責任を取らなければならない」、「新しい人材に選ばれるためには、労働環境の整備が必要だ。整備するためには原資を確保する力を高める。利益を上げるビジネスモデルの構築に努めなければならない」、「普通の人々が普通にやって生きていける社会をつくるべきだ」、「企業だったら利益を上げない意味が無い、稼いだお金を循環させる」等多くの意見交換がありました。

このようなことをふまえそれぞれの地域なりに地域経済ビジョンを構築する必要性を感じました。同友会が取り組むべきことが沢山あることに胸膨らませ帰ってきました。

第 15 分科会

情報活用が自社の未来を作る

～同友会の情報を自社にどう生かしますか～

宇佐美合板(株) 代表取締役 宇佐美 孝 氏
愛知同友会副代表理事

佐世保支部 直江 弘明

愛知同友会では1500社以上の景況調査報告から生み出される中小企業の生の情報を行政やマスコミに提供し、日銀短観の参考にされるような関係づくりを構築しています。また、同友会活動の中で得た情報を企業経営に取り入れ分析して活用することで、輸入関税撤廃などの逆境から、どのように会社を発展させてきたかを聞くことができました。

同友会は会社、経営者、経営環境を良くするための情報を売っている。情報はどこにでもある。景況調査の情報、異業種会員からの情報、事務局から得る情報。ただし、情報は自分が想像するもの。自分が欲しい情報を常に発信し続けるからこそ周りから自分へと戻ってくる。経営課題に関する情報、仕事の紹介、人材確保、借入金利、商品開発、M&A、後継者、賞与支給金額、ものづくり補助金など、様々な情報を同友会活動の中で得ることができたそうです。さらに、その情報を受け取るだけでなく、分析して実行に移すことで初めて会社を発展させる価値創造ができるということでした。

世界の情勢はデジタルデータの時代へ、5G、米中の対立、AI、スマホ決済、GAF A。日本の情勢は少子高齢化からくる顧客の減少、後継者問題、外国人雇用。地域の情勢もそれぞれに違った課題があります。そこから未来がどう変化するか、何に投資していくかという会社の今後の進路を予測しなければならな



いし、それはある程度予測できるということでした。

60分という時間があったという間に過ぎて、最後に言われたのが「伝力」。経営理念、会社の未来を社員に伝える力の大切さでした。

ディスカッションテーマは「同友会でどういう情報を得ていますか？そこで得た情報をどう活用し、会社を発展させていますか？」

まだまだ得る情報が少ない。会社も発展途上。ということは、自らの情報発信が足りない！ということに気づけた有意義な分科会でした。

会計 free の本格的な導入支援と操作支援を始めました!!

free に興味がある方、既に導入したものの上手く活用出来ない方、ご相談下さい。

▷ 会計 free 導入費用 (開始残高登録と 2 時間の操作指導) … 15,000 円～

※ 会計 free の使用料は別途

▷ 会計 free 個別操作指導… 当社研修室使用 (課早または大村) (3,000 円 / 2 時間)

これ以外で、会計 free の機能を使って事務の流れを再構築したい方もご相談に乗ります。

問 答 先 TM 事務ソリューション

長崎県諫早市津久葉町 5-121 津久葉エースビル 213 号

TEL.0957-46-3900 / FAX.0957-46-3901 mail.soumu@tm-jim.com



溝越 正 会員 (長崎浦上支部)

第12分科会

仲間づくりは誰のため？ 増と強で、強い組織づくりを！

～課題から見えてきた「顔の見える支部活動」～

(福)宮共生会 理事長 原田 良太 氏
(株)村上彫刻 専務取締役 村上 敦子 氏

佐世保支部 村上 敦子



今回の定時総会では、第12分科会にて、原田仲間づくり委員長と共に報告させていただきました。今回は、原田さんより増強日本一の実績を持つ佐世保支部の組織強化についてのご報告がメインでした。

私はプラスアルファとして、同友会活動による自社での実践報告（主に経営計画発表会への取り組み）やデジタルランチ・メンター制度についての報告をさせていただきました。

私の報告では、デジタルランチの件が一番関心が高かったようです。関さん・力武さんがしっかりと引き継いでいらっしゃることも報告させていただきました。



た。

原田さんのご報告は大変すばらしく、参加者の皆様感動されておりました！！自社・そして同友会、両方の組織づくりについて学ばせていただきました。また、橋口さんの素晴らしい座長のまとめにも、参加された皆様度肝を抜かれておりました。

定時総会が終わってからも、資料請求のメールが相次いでおります。どの支部も、増強の取り組みに大変関心が高いことを改めて感じました。終了後のアンケート集計結果も、良好でしたので嬉しかったです。コメント欄にも、デジタルランチを実施したい、自分たちの支部から良い風土をつくって広めていきたい。分科会で学んだことを支部へ持ち帰り実践したい等、嬉しいコメントがたくさんございました。

「報告者が一番の学びを得ることができる」という言葉通り、私自身大変勉強させていただきました。この学びを、自社発展と同友会活動にいかして、小さな両輪をしっかりと育てて行こうと決意した次第です。今回の機会をいただき、本当にありがとうございました。

佐世保支部 橋口 久

「中小企業家同友会全国協議会 第51回定時総会 in 東京」第12分科会の座長を務めました。報告者は、長崎同友会佐世保支部が誇る原田さんと村上さん。70分の報告と、合計90分のグループ討議で、参加者100名を超える分科会は大いに盛り上がりました。

分科会のテーマは組織強化。原田支部長時代の佐世保支部会員純増日本一が評価され、原田さんに分科会報告の要請があったのですが、私は、その頃が佐世保支部の成熟期の始まりだったと感じています。その前の歴代支部長の支部運営の積み重ねにより、良い意味で県に頼らなくなっており、支部が独立して小さな同友会をつくり始めた時代です。

私は、原田さんを「平成・令和の石原裕次郎」と呼んでいます。私は、原田さんが支部長時代の支部運営で、会社組織の在り方を学びました。原田さんが佐世

保支部の支部運営に変革をもたらすことができたのも、先輩会員の寛容さ溢れる支部風土があったからこそですが、原田さんの「人を信じ、人に任せ、責任はご自身で取る姿勢（そのために綿密な計画を立て、各委員長と強力な連帯を図る）」は、今の私の会社経営に大きく影響を受けています。原田さんのような人材と巡り会い、また原田さんの経営手法を支部運営を通して学べることも、同友会ならではの醍醐味でしょう。

今回は原田さんだけではなく、村上さんに報告指名があったことも大きなポイントでした。村上さんは同友会での学びと実践で成長されたご自身と自社の成長をお話しいただいたのですが、新入会員の増強には、村上さんのような「ザ・同友会」と称される会員が同時に増えていくことも大切です。言葉を変えれば、村上さんのような会員が支部内で毎年生まれたい支部は、新入会員増強と退会率防止に苦勞されるでしょう。



昨年度の佐世保支部の会員純増数も、全国9位。つまり、日本一はまぐれではなく、佐世保支部に底力がついている証であり、成熟期が継続しているというこ

同友会事務局 山田 幸司

中同協設立50周年という記念すべき、第51回定時総会に参加させていただきました。温かいお出迎えをいただき、長崎全研がまるで昨日のように感じました。

今回、私の大切な任務は、第12分科会の記録係です。

全国からの100名に及ぶ参加者の皆さんは、2017年度に佐世保支部が36名増で全国1位の純増数に輝いた、その要因は何なのか？また、その仲間づくりの成果とは何なのか！？を探るために集われており、会場は熱気に包まれていました。

原田さんが支部長就任時にされた「数を追いかける仲間づくりはしない！」という宣言は、皆さんに非常にインパクトを与えていました。ではなぜ、全国1位の純増数に至ることができたのか？衝撃は大きな疑問へと変わりました。もちろん、その答えは「顔の見える支部活動」づくりに傾注されたからです。

佐世保支部は、非常に幅広い年齢層で、「責任は取るから、とにかくやってみれば！」というベテラン会員さんが多いのが大きな特徴です。と同時に新入会員さんもすぐに互いを知り合えるようフォローも徹底しています。もちろん支部独自の経営指針策定セミナー等も開催されています。

支部全体を巻き込んだその地道な取り組みは、「ザ・同友会」とも言われる村上さんの誕生に繋がりました。

村上さんは、本当に同友会を活用して企業を発展させて続けています。今があるのは先輩方や仲間のおかげと謙虚に語られましたが、昨年度、入会3年目にして経営フォーラム実行委員長に抜擢される等、その真摯な取り組み姿勢は、誰もが応援したくなるのです。

橋口さんの座長のまとめは、まるで短い報告を聞いているかのようでした。仲間づくり活動を、狩猟民族と農耕民族に例えわかりやすくまとめられました。

「狩猟民族的にハンティングを行うのは、ジャング

とです。黄金期を迎えるとその後は衰退期がやってきます。よって、このまま黄金期なき成熟期が継続することを個人的には希望します。

「水や肥料は人が与えるとはいえ、花は自ら成長し、それぞれのタイミングで咲く」同友会における会員同士の共育ちも同様の観点です。それぞれ咲くタイミングが違うからこそ、会員の数を増やすことと、様々な目的で入会される会員の多様性がキーワードになります。同じような花ばかり集めてしまうと、共育ち、自己・自社成長、地域貢献で様々な制限が生まれてしまいます。多様性溢れる支部となれば、年を通して様々な花が咲き乱れ、どんな種類の花でも見事に咲く「よい土壌」となります。これからも佐世保で良い土壌をつくっていきましょう。

ルに入って互いの顔が見えないまま孤独に活動することと同じで、数を追うことに発想が繋がります。仲間づくりで大切なのは、農耕民族型の支部運営で、支部の「良い土壌づくり」です。良い土壌には、良い作物が育ち、しかも良い作物が大量に収穫できます。」

シミュレーションを重ねた甲斐がありました。お二人の報告と座長のまとめは実にすばらしいものでした。

無から少しずつ何かを生み出し続けて来られたこの50年間の先人の皆様に敬意を表するとともに、同友会運動の更なる前進をめざし、今後に向けての覚悟と責任を痛感した本総会でした。

参加させていただきましたことに感謝申し上げます。



各界からの提言

島原市長 古川 隆三郎



プロフィール

- 生年月日：昭和31年6月30日
- 最終学歴：昭和54年 3月 福岡工業大学卒業
- 略歴：平成15年 6月 島原市議会議員就任
平成20年 9月 島原市議会議員退任
平成24年12月 島原市長就任
平成28年12月 島原市長再任(2期目)



長崎県中小企業家同友会におかれましては、昭和47年の創立以来、会員相互の強い結束のもと、会員企業の発展はもとより、経済界の振興、地域の中小企業の発展に貢献されておられますことに対しまして、深く敬意を表します。

さて、本市では最重要課題である人口減少問題の解決のため、若者の就職、定住や子育て、教育環境の充実を通じた移住・定住の促進などの施策を切れ目なく展開し、若者が、島原で就職し、結婚し、子どもを産み育てていく、そのような将来を見据えた人口減少対策を総合的に推進してきております。

また、本市を象徴する島原城が6年後に築城から400年を迎えることから「島原城築城400年 繋げ未来へ!」をキャッチフレーズに、城下町の歴史、伝統、文化の再認識と情報発信を行うとともに、本年、NHK長崎発地域ドラマ「かんざらしに恋して」が放送されましたが、映画やドラマなどのロケ地を地域振興に繋げる「ロケーションツーリズム」の推進など各種事業に取り組み、新たな歴史・文化を創造し、未来へ伝承することによって本市の発展を図ってまいります。

このような取り組みに併せ、地域の発展、

経済の活性化のためには、地域で生活している人々、特に、これから地域を担っていく若者が、その地域に魅力を感じることができるよう地域づくりを目指さなければならないと考えております。そのためには地域生活と密接な関係を持ち地域経済の基盤である中小企業の皆様方による主体的な事業活動の持続と発展が不可欠であります。

本市といたしましても、地域雇用の多くを占める地場中小企業の支援として、設備投資や雇用拡大などに係る各種支援制度をはじめ、平成27年度には専門支援員を配置した創業支援ワンストップ窓口として「しまばら創業サポートセンター」を設置するなど、創業や事業承継を支援しております。また、新規学卒者の地元就職を促進するため、県や関係機関と連携し島原半島企業説明会を実施するなど、今後も若者の定住・定着に向けた様々な取り組みを地域が一体となって推進してまいりますので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員皆様方の今後ますますのご発展をお祈りしますとともに、地域事業者の先駆者として、さらなるご活躍をご期待申し上げます。

長崎浦上支部 例会報告

日 時	7月23日(火) 18:30～21:00
会 場	長崎新聞文化ホール・アストピア
テ ー マ	中小企業振興基本条例を知ろう ～私達中小企業は行政とどのように連携したら共に成長できるのか～
報 告 者	(株)大幸企画 代表取締役 時 忠之 会員 (大村支部)



今回7月の長崎浦上支部例会は、あまり馴染みのない中小企業振興基本条例について県政策委員長の時さんから大村市における条例制定のいきさつ及び、地域経済の活性化にいかに関与が大切かを報告していただきました。

その中で、大村市条例制定までの時系列的な流れ、条例制定ができたことで満足して十分に機能していなかった、機能させるためには中小企業振興会議を立ち上げ腰の重い行政を動かすことが大切だということが分かりました。

条例の最初の部分は日本国憲法の前文と同じような目的、定義、基本理念を謳い上げていますが、このような方向性をはっきりと明文化した条例があること



で、行政が中小企業振興を通じて地域の発展を図ることを市民に対して約束したことになり、中小企業の要望に対して積極的に動く地域や我々企業家にとってのメリットがあります。

時さんは、同友会の目的である、よい会社、よい経営者を実践させるためには、よい経営環境をつくろう、そのためには条例の制定が不可欠だということを熱く語っていただきました。また、現時点において長崎市に中小企業振興基本条例がないことが問題だとして、どうか条例制定の実現化のためにプロジェクトチームを立ち上げることが第一歩ではないか。これを受けて、西村支部長は、長崎出島支部とも連携しながら条例制定実現化に向けたチームを発足させることを約束しました。条例空白地域の長崎市でいよいよ大きな動きが出てこようとしています。地元市内の中小企業を元気にさせるための条例制定の動きがほかの経済団体にも受け入れられ、取り上げられることにもなれば、同友会の認知度も上がり、ひいては会員増強にもつながるのではないかと考えます。

(文責 浜本 義文)

長崎出島支部 例会報告

日 時	7月29日(月) 18:00～20:30
会 場	ホテルニュー長崎
テ ー マ	外国人労働者の雇用について ～技能実習採用で光が見えた?～
報 告 者	(有)金井建設 代表取締役 金井 政春 会員 (大村支部) リーガルナビ行政書士事務所 代表行政書士 李 泳勲 会員

今回の例会はダイバーシティの一環として外国人雇用を率先してされている金井さんの報告でした。県のダイバーシティ委員会では一度、外国人雇用に関する例会を行いました。長崎出島支部でさらに詳しい内容で例会が行われたのもとてもよい試み



だったと思います。

外国人雇用と聞いてハードルが高いように感じる方がいると思います。私自身そうでした。しかし、金井さんの報告を聞いていると、必然的に雇用に至ったこ

と、そして、大切な社員というのはもちろん、家族のような暖かな気持ちで迎え入れていることにとても感動しました。障がい者雇用も外国人雇用も人としての気持ちの部分はなんら変わりありません。

生活習慣の違いは奥様がきちっと教えてくださってたようで、こういった細かい部分までの気配りは見習うべきことと感じました。

例会には二人の技能実習生も参加してくださいました。いきいきとした表情が印象的でした。日々の仕事やプライベートの様子などの紹介もあり、外国人雇用が身近に感じられました。一方、制度の部分にはまだまだ規制もあり、問題もたくさんあります。

グループディスカッションでは世界の中の日本の考えの甘さなど浮き彫りになりました。現実問題この先も確実に外国人雇用は増えていき、法も変わっていきます。私たち中小企業がより深く学び、率先して雇用していくことが必要であると思います。今回はゲスト



の方も多く来られ関心の高さもうかがえました。

私自身、もう一步先のダイバーシティ経営を進めていこうと感じた非常に意義のある例会になりました。

(文責 菅原 千代枝)

大村支部 例会報告

日 時	7月18日(木) 18:30 ~ 21:00
会 場	長崎インターナショナルホテル
テ ー マ	そうだったのか！中小企業振興基本条例！
報 告 者	松本 長康氏 (条例制定時 大村商工会議所副会頭) 高濱 広司氏 (元 大村市商工観光部長・条例制定時 市担当部長) 富永 栄一郎 会員 (条例制定時 大村支部政策委員長) 時 忠之 会員 (県政策委員長)



「中小企業振興基本条例（以下略称：振興条例）」、同友会会員なら一度は聞いたことのある名称。しかしながら、「その中身はあまり知られていないよね。なぜできたのだろう？同友会は何か関わったの？」そんな疑問から今回の例会企画は始まりました。

大村市に振興条例をつくるにあたり大きく関わった松本氏、高濱氏、富永さん、宮田さん、そして振興条例制定後の振興会議に携わってきた時さんにこうした疑問に対し報告をいただきました。

大村市の振興条例を語るうえでのキーワードは「市長に中小企業施策を提言する振興会議の設置」と「無料で事業者が相談できる窓口・産業支援センターの設



置」の2点です。との宮田座長の言葉からスタート。

富永さんは「大村支部長を経験して、大村市を頑張る中小企業の街にしたい！同友会の3つの目的のひとつである良い経営環境をつくろうを実現するには首長が変わっても中小企業施策がブレずに実行されていく振興条例が必要だ」という思いが当時の自分を動かし商工会議所、市役所、市議会議員など働きかけにつながった」と当時を振り返り語られました。

当時、商工会議所副会頭であった松本氏は「副会頭としてなにか人生に誇れるものを残しておきたいと考えていた時期に富永さんから条例の話聞いた。振興条例制定こそが大村市内の事業者の発展につながる近道と思い、同友会と協力して市役所へ働きかけを行った」と当時の関わりを話されました。

当時の大村市役所商工観光部長であった高濱氏は「同友会の存在も知らない状況だったが富永さんと宮田さんの熱意を感じ、話に感動したことを覚えている。振興条例は単なる理念だけの述べた条例ではなく実効性のある条例にしたいと思い勉強した。振興条例は自分の市役所人生の誇りです」と述べられた。

時さんは「当時の諸先輩方の熱意、努力が結実してできた振興条例。大村市の振興条例は中小企業家の声



を市長への提言に反映させる振興会議と事業者が相談できる窓口・産業支援センターの2つの仕組みが存在

します。これは中小企業が地域の主役となるためのシステムです。自分たちの街は自分たちが創る！声を上げていくことが大切」と話されました。

締めくくりに宮田座長より「私たち中小企業家が動けば変わる。黙っていても経営環境は良くならない。自ら動くこと。動かなければ何も変わらない」との言葉が参加者へのメッセージとして述べられ、報告者それぞれが印象に残る言葉を多く発せられた例会となりました。

(文責 徳田 義彦)

諫早支部 例会報告

日 時	7月18日(木) 18:30～21:00
会 場	四季の蔵 食楽亭
テ ー マ	「選ばれる企業づくり」の実践
報 告 者	(株)富建 取締役 総務部部長 野方 康平 会員



(株)富建では社員の行動指針をも含めた経営計画書が作られ、社員教育の風土があり、それがしっかりと仕組み化され、社員の働きがいに繋がりは始めている。また、あらゆる変化を恐れずにチャレンジされ、それら全てが一番の経営資源と位置づけられてい

る「社員の幸せ」の実現に結びついている。その結果、毎年数名の新卒者を雇用され、早期離職者もなくしっかりと社員として根付いていて、これぞ正しく「選ばれる企業」に変化されている企業だと感じました。そしてこの仕組み化による社員満足の高さが、顧客満足



にも反映されているのだと思います。今回の報告は「選ばれる企業づくり」の在り方・やり方・実践が学べた、学び多き例会となりました。

(文責 古泉 英一)

島原支部 例会報告

日 時	7月18日(木) 19:00～21:15
会 場	HOTEL シーサイド島原
テ ー マ	働き方改革 重要論点の解説 ～時間外労働の上限規制と年次有給休暇取得の義務化～
報 告 者	梅澤社会保険労務士事務所 所長 梅澤 浩 会員

2018年6月29日に成立した働き方改革関連法案。2019年4月1日について改正法が適用開始されました。対応がまだの企業は、法改正に対応した労務管理ができるよう準備を進めていく必要があります。そこで、7月の例会は梅澤社会保険労務士事務所の梅澤さんに、働き方改革について解説していただきました。

①時間外労働の上限規制 ②5日間の有給休暇取得の義務化 ③インターバル制度の努力義務 ④労働時間



の適正把握の義務化 ⑤フレックスタイム制の拡充 ⑥中小企業の60時間超の残業代引き上げなどについてお話しして下さいました。お話を聞いて率直に「難しくあまり理解できない」と思いました。ただし、今回の働き方改革関連法案の施行にともない、経営者としても企業の働き方について考えさせられる機会となり、長時間労働の抑制や年休取得の促進に取り組むため、業務プロセスの見直しや時間の有効活用。また、個人が仕事の仕方やペースを自己管理することによる、組織と個人間の好循環が生まれ、企業と共に成長が期待できる。そのような考え方で前向きに取り組んでいく必要性を感じました。

その後、グループごとに質問を話し合い、各5分程



度の質問に対し梅澤さんに回答していただきました。どのグループも具体的な質問が多く、すぐに答えられるものばかりではありませんでしたが、疑問を共有することで、これからの自社での働き方改革の進め方に大いに役にたったのではないかと思います。

(文責 馬場 絵美)

佐世保支部 例会報告

日 時	7月19日(金) 18:30 ~ 21:00
会 場	九十九島ベイサイドホテル&リゾート FLAGS
テ ー マ	佐世保市との連携で、 あなたの会社をよくしませんか
報 告 者	佐世保市観光商工部商工物産課 主幹 金子 泰雄氏 係長 池淵 正美氏 係長 鳥本 実穂氏 主査 荒木 一浩氏



佐世保支部では2017年から佐世保市との合同例会を開催しています。三回目となる今回は佐世保市商工物産課の皆様の全面的な協力のもと、無事開催しました。



市との最初の協議で「地元企業の経営環境をよくしたい」市の想いと同友会三つの目的の一つである「よい経営環境をつくろう」の重なりを確認しました。

今回の目的は「会員の経営環境をよくするために、市の中小企業支援施策の活用度を高める」ことです。

例会では支援制度をまとめた「企業支援ガイドブック2019」の説明を受け、そして、「施策をどう活用するか、どういう制度になれば活用できるか」というディスカッションテーマのもと、話し合いました。以下意見を紹介します。(一部抜粋)

「経営相談や1日経営ドッグを使ってみようと思う。多くの補助金があることを知らなかった。単独ではなく様々な機関と連携してチームで経営課題を解決することが大切と学んだ。グループ内で支援を実際に受け



た人の話を聞いて良かった。採用後の具体的な施策はU I J ターンはあるが新卒にはない。対象にしてほしい。補助金申請の手続きを簡単にしてほしい。具体例・参考例が知りたい。個別や制度別の説明会をしてはどうか。佐世保市を中心に川棚、松浦、佐々、平戸など対象エリアを広げてはどうか。西海市にも窓口を欲しい。この会をきっかけとしてどんどん市の施策を活用し、同友会として商工物産課と共に結果を出

していく。」

今回は橘高前政策委員長の丁寧な引き継ぎと豊福支部長はじめ役員の方の皆さんの全面的な支援、直江顧問、馬渡副委員長、鳥川委員との政策委員会のチームワークで無事終わることができました。(他委員との連携をつくるのが今後の課題です) 本当にありがとうございました。

今後も市との協議を継続し続けることで、「よい経営環境をつくろう」につなげていきます。そのために景況調査アンケートの回収30%を達成したいです。ぜひ提出をお願いします。

(文責 富松 太一)

北松浦支部 例会報告

日 時	7月23日(火) 18:30～
会 場	松浦シティホテル
テ ー マ	北松浦支部の今後のビジョンを語ろう



現在40名の会員が所属していますが、例会の出席者数が非常に少なく、活動が停滞しています。こうした例会運営の状況を打開するために皆で語り合いました。

<北松浦支部の現状>

- ・地理的な問題。平戸、松浦、佐世保と広域であるため、なかなか例会に参加しづらい。
- ・昨年度、エリアごとに班制を導入したがうまくいかなかった。各エリアでキーマンが必要なのではないか。
- ・まず、例会に参加しないと同友会の良さがわからない。伝わらない。
- ・例会以外での繋がりが少ない。例会以外のイベントがない。会員同士の交流が少ない。
- ・例会案内への返信率が低い
- ・“企業”というより”家業”として活動されている人が多いから。
- ・例会への出席が少ないが、同友会をやめない。なぜ？



<北松浦支部の今後>

- ・魅力的な先輩が必要。自分自身が同友会で勉強して魅力的な人間になっていく。
- ・経営がうまくいっている人の真似をする。
- ・例会案内への回答率を上げる。e.doyuを必ず見ることが会員へ勧める。
- ・地区でのキーマンが必要。
- ・役員を増やして、各会員に役割を持たせる。支部組織の流れ、運営が分かるようになる。

<今後の北松浦支部の例会の在り方>

- ・例会のワクワク感を増やす。
- ・ディスカッションのテーマをしっかりと考える。自分の会社に持ち帰れるテーマ。報告者の立場に絞ってディスカッションテーマを考えてみる。
- ・経営の勉強ができる例会を企画する。
- ・勉強色が強すぎるのをなくす。
- ・ベテランの会員さんが報告をする。ベテランの会員さんが報告をすると「参加しなければ」という意識が高くなる。
- ・同業者の話しを聞ける例会
- ・度肝を抜くぐらい若い会員の報告が聞きたい。
- ・先輩と若手がバランスよく報告する例会

(文責 吉田 大)

五島支部 例会報告

日 時	7月19日(金) 18:30～21:00
会 場	観光ビル はたなか
テ ー マ	支部全体ディスカッション ～PRや悩みをYou言っちゃいなよ!～



7月度の例会は2名のゲストを含め計17名の参加でした。司会者、宮田さんの元気な声で始まり、新入会員2名のうち、当日参加の(株)希(介護サービスゆり)の山下麻世さんへバッジ贈呈が行われました。今後の活躍に期待です。

なお、今月は台風5号の影響で、報告をしていただけ予定の大村支部の宇土さんが来島できなかったため、急遽参加17名による全体ディスカッションを行いました。五島支部では初の取り組みです。

テーマの通り、参加者がそれぞれ自社のPRや困っ



ていることなどを発表し、発表を聞いた他の参加者が自社での経験を踏まえたアドバイスをするという形式で進められました。

社会的な問題の人材不足・人手不足のことや新規事業参入への不安などトークは多岐に渡りました。進行役の設楽支部長の上手な割り振りもあり、時間があっという間に過ぎました。個人的には新入会員の山下さんやゲストのお二人も積極的に発表されていたのが印象的でした。

急遽行った全体ディスカッションでしたが、最後に共同求人などのアイデアも出て、今後に繋がる有意義な時間になりました。

最後に、今回は残念でしたが諫早支部の皆様にはぜひまた機会をつくっていただき、経営フォーラムのキャラバンをやっていただけたらと思います。五島支部からも多くの会員が参加できるよう周知して参ります。

(文責 高細 圭一)

青年経営者会 例会報告

日 時	7月25日(木) 19:00～21:00
会 場	メルカ築町 長崎市民生活プラザホール
テ ー マ	これまでの青経を学び、これからの青経を構築する



さる7月25日に、青年経営者会7月例会が行われました。本例会は、今年度より新たに新体制としてスタートした3ブロックエリアの最初の通常例会で、県南ブロックエリア担当例会となりました。体制が変わることで、役割なども変化し、反省点や新たな可能性を沢山考えさせられる例会となりました。



本例会では、永池元会長・西村元会長より青年経営者会設立の想い、本会と青年経営者会の違い、青経の同世代だからこそできることや話し感じられること、また、飛田会長の原点を見つめなおしこれからの青経の取り組みに対する思いとともに、3名のパネリストより、この素晴らしい同友会とその中の青年経営者会という、本会とはまた別の経験や楽しさ、良さをお話いただき、これからの発展とより一層の活躍を期待していただくお言葉をいただきました。

私自身も、本例会を通して、青年経営者会の良さを再確認し、この素晴らしい会をより多くの仲間を知っていただきたいという思いになりました。

(文責 長崎出島支部 分部 高)

ダイバーシティ委員会 第12回例会 開催報告

日時：6月28日(金) 18:30～20:30 会場：サンスパおおむら

テーマ：ひろがる無限の可能性 ～未来を支える特別支援学校 生徒の夢・希望・実践～

報告者：長崎県立虹の原特別支援学校 進路指導主事 山下 祐司 氏

長崎県立島原特別支援学校 進路指導主事 池田 章洋 氏

(福)南高愛隣会 長崎障害者就業・生活支援センター 所長 野口 弘行 氏



ダイバーシティ委員会 第12回例会は、73名の方に参加していただき、そのうち35名がゲストで、とても活気のある例会となりました。

山下氏、池田氏より、各学校の特色や生徒の特徴などをお話ししていただき、生徒たちの実習の様子を動画で見た時、健気に一生懸命に頑張っている姿に感動し、涙が溢れました。その思いは参加されている皆さん、同じようでした。

次に野口氏より生徒が就職した後のサポート体制や助成金のことなどをお話ししていただき、長期に渡ってサポート体制が万全だということが分かりました。

グループディスカッションでは、実際に島原の老人福祉施設で島原特別支援学校の卒業生を雇用されている事業所のお話を伺うことができました。

その子は他の職員と何ら変わらず働いているとのこと、書くことだけが苦手だったので、箇条書きにすると記録もできるようになったと言われていました。電話対応も施設長よりうまく、夜勤もしているそうで

す。雇用する側の対応を工夫し、その時その時で対応していけば何の問題もないのではないかと感じました。また、「偏見の目で見ている」「何でも一緒にしてみたい」という意見も出ていました。

グループ発表も、皆さん熱い思いを語ってくださり、ディスカッションテーマの「あなたの会社でさせてほしい仕事はなんですか？」も同じ立場に立っていないのではないかと指摘に、反省させられました。

野口氏のお話しでは、長崎県内の障がい者の就職件数は10年連続で増加しているそうです。本当に真面目に長く仕事に取り組んでいる姿勢が素晴らしい！！私の事業所でも実習を受け入れたいと本気で思いました。

アンケートでは約20社が実習受け入れたいと意思表示してくださり、先生方もとても喜ばれていました。

特別支援学校の生徒が希望の職業に就職できるように、今後も沢山の企業に働きかけていきたいです。



(文責 島原支部 馬場 絵美)

第1回 新入社員フォローアップ研修 開催報告

日時：7月27日(土) 13:00～16:00 会場：諫早市社会福祉会館

長崎県中小企業家同友会 2019年度第1回新入社員フォローアップ研修を新入社員23名で開催。

副代表理事の中村さんから新入社員に向けて新入社員研修の目的と意義を説明。これからの新入社員の皆様への期待を述べられました。

先輩社員からの事例発表では(株)智翔館の中村巨佑氏から「経験と成長、やりがいと責任、周りを巻き込み共に成長するリーダーになろう」。(株)エイコー

商事の池田あきほ氏からは「人見知りを克服したくて、車輛、整備の受付を希望した」体験等で、1年先輩の方々の具体的な仕事への取り組みを発表。

その後、グループに分かれて「お互いの現状を知り、グループで3つの打開策を見つけよう」をテーマにグループディスカッションを行い、「効率よく仕事を行う。優先順位を付ける。知識を身に付ける。自分から声をかけて仕事のしやすい環境をつくる。」などの意



見ができました。タワーをつくるチームビルディングの研修では、率先して行動し、アイデアを出し合い、笑顔で研修に取り組む新入社員の姿に参加した経営者の方々から良い研修だったとの声を多数いただきました。

(文責 県共育委員長 松本 一孝)



プライアント(株)(佐世保支部 橋口会員) 経営計画発表会 参加報告

日時：6月27日(木) 15:30 会場：九十九島ベイサイドホテル&リゾート FLAGS



【参加者の声】※誌面の都合により抜粋

1. (株)戦略営業コンサルティング 永吉 秀行

個人目標を一人ひとりがしっかりと発表されていました。堂々と話しができていたのが印象的でした。経営理念・ビジョン・ミッション・経営方針・経営計画の5つをしっかりと考えられ経営指針のもと、10年ビジョンには本当に感動しました。

経営者として社員を導き、まもっていく、当社もしっかりと学び実践していこうと思います。

2. ニコット・サービス(有) 江口 陽一

第3部のグループディスカッションで、いい会社



とはを考えさせてもらい、発表を入社歴2か月の田中さんがされました。グループ全員で田中さんを応援しました。グループで社員さんと

色々と話ができ、久しぶりに熱いものが込み上げて来たいい経営計画発表会でした。

3. (株)村上彫刻 村上 敦子

企業としてはもちろん、個人個人の目標が明確にされており、それぞれが何処に向かっているのかはっきりとされている素晴らしい経営計画発表会だと思います。

5年10年先を見通すのは難しいと思いますが、それを明確にされている。見習う点が多々ありました。

4. (株)富士商工 中島 雄一

第1部 ・成長、共育

第2部 ・目標、コミットメント、指針

島原支部 企業訪問 in (有)島原種苗 参加報告

日時：7月12日(金) 13:00～ 会場：(有)島原種苗 (島原支部 河原 邦昌 会員)

同友会活動を通して学びを進める中で、まずは、同友会の支部メンバーの取り組みを知ろうということで、今回、第二回の企業訪問を開催いたしました。今回訪問させていただいた企業は、支部例会副委員長を務める河原さんの(有)島原種苗に訪問いたしました。同社では、稚魚(主にトラフグ)の生産を行っており、

養殖業者への稚魚販売、また放流事業を行っております。他にヒラメの養殖等も行っています。

初めに、事務所を案内していただき、事務所の壁には、経営理念「海の恵みを未来へ、命を未来へ」を大きく貼り付け、その横には同社の取り組む「6S改善活動」のポスターがあり、学びの実践を、会社に取り



入れる姿勢を感じました。養殖場内では、整理整頓が行き届き、社員さん達も明るく挨拶をしていただき、就業環境

が整備されていると感じました。あとで、社員さん達と話をしたとき、場内での危険箇所等の情報が共有されていることを聞き納得できました。

社内を見学させていただいた後に、社員さん4名に参加していただき、会員メンバーからのインタビュー形式での質疑に回答していただきました。仕事に携わって誇れるものは、「稚魚」=「子供」として情熱をもって成長に携わることができる。また、出荷できるまで育て上げることへの喜びを感じることができる。

また、他稚魚を傷つけないように、一匹一匹の菌切りを行う気の遠くなるような作業もやりがいをもって行っている。社員さん達が仕事に誇りを持って取り組んでいると感じました。



今回、企業訪問に参加した会員10名で、それぞれに他社の取り組みから得るものがあったものと思います。同友会での学びの実践、会員それぞれが自社での実践を行い、会員企業がますます発展することを望むばかりです。

実践の場に出向いて感じることでできる企業訪問は大変いい機会です、今後も続けていきたいと思っております。

(文責 島原支部 北浦 雄一)

中同協関連会議 参加報告

《中小企業憲章・条例推進月間キックオフ会議》

日時／6月4日(火) 13時30分～18時
会場／衆議院第二議員会館1階 多目的会議室

今回初めて、国会議員各位による個人の発言だけでなく、各政党を代表して、取り組まれている中小企業政策や中小企業に対する期待等について発言をいただきました。

中小企業憲章の国会決議や中小企業担当大臣の設置に向けての前向きな発言もありましたが、その実現はかなり厳しいようです。消費税増税、働き方改革、最低賃金の引上げ、事業承継問題等々、時間の許す限り発言いただきました。

中山幹事長は、中小企業憲章制定運動の広がりの実感として、今回の成果を3点にまとめられました。

「①各政党の代表発言では、全ての政党が中小企業憲章の理解や中小企業の重要性を理解していた。②「中小企業の日」制定では、7月20日が「中小企業の日」となり、7月は「中小企業魅力発信月間」として取り組むことが方向付けられ、与党である自民党が動いたこと、また、全国民に向かって中小企業の重要性が発信できることは素晴らしい。③中小企業振興基本条例が46都道府県439市区町村と全自治体の25%を占めるまで広がってきた。中小企業憲章の国会決議に向けて、この3点がしっかりと結びついてくると思います。

豊かな国づくりのために、会内外に運動の輪をひろ

げ、自信と誇りを持って運動する仲間を増やしていきましょう。」

《九州・沖縄ブロック 代表者会議 参加報告》

日時／6月5日(水) 9時30分～11時45分
会場／グランパークカンファレンス
2階ハイツ棟会議室

主な議題は、

- ①6月20・21日のブロック支部長・支部役員研修交流会について
- ②青年経営者全国交流会(熊本)への支援、協力について
- ③会員増強の取り組み(ブロックで8千名!です)
- ④消費税増税への対応、取り組み 等でした。

《中同協 第5回幹事会 参加報告》

日時／6月5日(水) 13時～17時
会場／TKPガーデンシティPREMIUM田町

主な議題は、「全国5万名会員達成に向けた取り組みについて」でした。

中山5万名推進組織強化本部長(幹事長)から、期首4万7千名台を割っていると報告と、①各同友会が掲げる2019年度目標を達成すれば5万名に到達する ②今後、月平均で300名の純増に向けた取り組みが求められているがこれは実現可能である!等の提

起がありました。

最後に中山氏は、会員増強は、①楽しく取り組む(雰囲気づくりはリーダーの役割) ②皆で取り組む ③最後までやりきる この3点が重要だとまとめられました。

《5万名必達へ向けての緊急事務局長会議 参加報告》
日時／6月5日(水) 17時30分～20時30分
会場／TKPガーデンシティPREMIUM田町

中山5万名推進組織強化本部長(幹事長)からの、5万名推進の意義と達成に向けた問題提起がありました。



緊急という、また開催趣旨の件もあり重々しい雰囲気の中ではありましたが、長崎としては、仲間づくり委員会の「数は追わずに、楽しく取り組む！」という活動方針と年3回の県下一斉仲間づくりの日の取り組みについて報告させていただきました。

(文責 事務局 山田 幸司)

新入会員の皆さんです <7月入会・交代・復会> (敬称略)

<入 会>

支 部 名	佐世保支部			
氏 名	たけお たつゆき	竹尾 達幸		
企 業 名	(株)eco住まいる			
役 職 名	代表取締役			
企 業 住 所	〒857-0341 北松浦郡佐々町羽須和免 637-2			
T E L	0956-37-8163	F A X	0956-37-8163	
業 種	住宅リフォーム業			
スポンサー	石丸 文悟			

支 部 名	五島支部			
氏 名	たにくち かずのり	谷口 一則		
企 業 名	CEGクリーン環境五島			
役 職 名	代表者			
企 業 住 所	〒853-0042 五島市吉田町2563-9			
T E L	0959-88-9209	F A X	0959-88-9209	
業 種	配管工事業			
スポンサー	山本 一徳			

支 部 名	五島支部			
氏 名	やました まよ	山下 麻世		
企 業 名	(株)希			
役 職 名	取締役			
企 業 住 所	〒853-0042 五島市吉田町3287-16			
T E L	0959-74-5678	F A X	0959-88-9495	
業 種	福祉業			
企 業 PR	利用者一人一人の性格や特徴を生かした介護や援助。バランスのとれた食事を提供します。			
スポンサー	平田 雅彦			

<交 代>

支 部 名	佐世保支部			
氏 名	かさみ いちろう	笠見 一朗		
企 業 名	九十九島ベイサイドホテル&リゾート フラッグス			
役 職 名	支配人			
企 業 住 所	〒858-8589 佐世保市鹿子前740			
T E L	0956-28-2111	F A X	0956-28-2119	
業 種	ホテル業			
企 業 PR	人生最大のセレモニーである結婚式で「思いをカタチ」にし、非日常の空間と言えるホテルやレストランで「やすらぎ」と「上質のおもてなし」、また多種多様なご宴会をご提供いたします。お客様からの「ありがとう」に応え、お客様に対する「ありがとう」の気持ちを届けていくことを使命と捉え、セレモニーの枠を超えた更に豊かなライフステージをプロデュースします。			
前 会 員	椎山 昇			

<復会(交代を伴う)>

支 部 名	諫早支部			
氏 名	やまだ けんいちろう	山田 謙一朗		
企 業 名	(有)松新			
役 職 名				
企 業 住 所	〒859-0403 諫早市多良見町市布1556-1			
T E L	0957-43-0351	F A X	0957-43-0315	
業 種	レストラン			
企 業 PR	昭和42年創業以来、地元のお客様を中心に、幅広い年代の方を対象としたファミリーレストランです。肉料理を専門にしており、名物の「牛めし」や「網焼きステーキ」「手ごねハンバーグ」等が人気です。			
スポンサー	松浦 栄太馨 (大分同友会)			

会員活躍

長崎新聞 7月7日(左) 7月19日(右)
大村支部 中村 康祐 会員

長崎新聞 7月17日
諫早支部 佐藤 快信 会員

長崎新聞 7月31日
諫早支部 上野 辰一郎 会員

第1回国際防災イノベーション宣言で協力関係を結んだ関係者
—長崎大文数キヤンパス中部講堂



日本の高い防災技術を活用し産学が連携して社会問題の解決を目指す「第1回国際防災イノベーション宣言」が6日、長崎市文教町の長崎大文数キヤンパス中部講堂で開かれた。

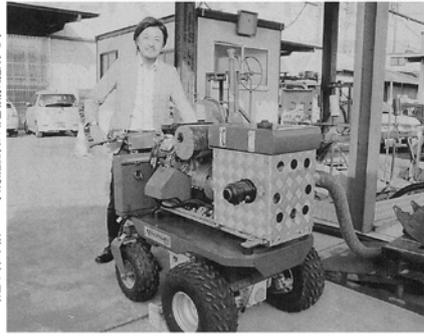
長崎大「イノベーション会議」日本企業など協力確認

府による基調講演の九州唯一の消防車メーカー、ナカムラ消防化学(大村市)など本県と関係のある企業を発表。両国間の技術や企業、大学の自治体や企業、大学など者で協力関係を結ぶ、国際防災イノベーション宣言をした。

タイ・チェンマイでは、焼き畑農業に起因する森林火災で被害が発生し、大気汚染や健康被害が深刻化している。長崎大が

防災技術 タイでも活用を

タイで自社ポンプ需要調査



大村・ナカムラ消防化学

九州で唯一の消防車メーカー、ナカムラ消防化学(大村市)は今年から、森林火災が深刻化するタイで、自社で製造した消防ポンプの需要調査に本格的に乗り出した。中小企業の海外展開を支援する国際協力機構(JICA A)の案件化調査にも採択。同社の中村康祐社長は「タイだけでなく東南アジア全体の消防に貢献したい」としている。

森林火災深刻化 1年かけ課題探る

同社によるタイでは近年、焼き畑農業に起因する森林火災で煙霧が発生し、大気汚染や健康被害、環境破壊が深刻化している。こうした火災による被害を軽減するため、同国の消防機材や技術の向上が大きな課題となっているという。

案件化調査では、同社が製造した小型消防ポンプ1台を現地で使用してもらい、1年かけて需要や課題を探る。ポンプは小型で持ち運びが可能のため、街中の狭い場所や山岳地帯でも消防活動に使える。約1キロの送水能力があり、平時は農業用ポンプとしても活用できるという。早ければ3年後にも本格的な輸出につながる。早ければ3年後にも本格的な輸出につながる。早ければ3年後にも本格的な輸出につながる。

江戸期の長崎街道 インフラ 歴史学ぶ



松原宿活性化協議会のメンバーから話を聞く生徒ら
—大村市、旧松屋旅館

大村高、ウエスレヤン大生80人

江戸時代の長崎と小倉を結んだ長崎街道にスポットを当て、高校生と大学生が共同でインフラや歴史、地域づくりなどを学ぶ「長崎街道インフラさくらぐりん大村」が10日、県立大村高(鶴田勝也校長、897人)などであった。

長崎街道の全体像を理解すると同時に、課題を考えてまとめる力を付けてもらうのが狙い。大村高と長崎ウエスレヤン大が初めて企画し、生徒と学生計約80人が参加した。

生徒らは5月と6月の計2回、専門家による講義をはじめ、さまざまな分野で課題を考えるグループワークに臨んだ。最終回の7月

10日は、国土交通省九州地方整備局や県史振興局、福岡重郷土史同好会など各分野の専門家による講演やフィールドワークがあった。

このうち江戸時代に長崎街道の宿場町だった大村市松原本町の旧松屋旅館には約30人が訪問。同旅館を拠点に活動する町おこし団体、松原宿活性化協議会のメンバーから地域の歴史や産業、文化について話を聞いた。

大村高2年の奥山ひとみさん(17)は「いろんな世代の人が一丸となってまちづくりに取り組んでいることが、とてもすてきだと感じたと感銘を受けていた。」

(荒木竜樹)

九州ガスHD私募債 受託でラグビー用具

たちはな信金

九州ガスHD私募債受託でラグビー用具。たちはな信金。私たちはな信金(本店)は29日、同市の九州ガスホールディングス(HD)、栗林宏光社長が発行した1000万円CSRR私募債「輝く未来」の受託に合わせ、県ラグビー協会(松本浩理理事長)にジュニア向けラグビー体験用具を寄贈した。同私募債は地域創生を支援し、同社の発行額は1億円。同信用金庫と財務代理人の信金中央金庫が発行額



ラグビー体験用具の寄贈品贈呈式に出席した右から、松本理事長、栗林社長、松本理事長、栗林社長、たちはな信用金庫本部

の0.2%相当額の物品を購入し、発行企業が指定する寄贈先に贈る仕組み。同市小川町の同信用金庫本部で寄贈品贈呈式があり、栗林社長は「未来のジャパン」となる中高生、大学生の育成へ協力したい」とあいさつ。松本理事長は「ラグビーになじみが薄い子どもたちに競技の魅力を知ってもらう機会に役立てたい」と述べた。贈られたボールやタックルバッグなどは、同協会の体験イベントで活用される。

信金中央金庫福岡支店によると、同私募債は2017年4月から取り扱いを始め、今年6月末までで全国86件、計64億円を発行。たちはな信用金庫では2件目。(高比良由紀)

事務局企業訪問

今回は、県央の朝にさわやかな声をお届けされている太田 陽さんにお話しを伺いました！



太田さんは、2015年4月入会の38歳。出身は宮崎県延岡市、宮崎大学卒で、双子とのことです！趣味は、作詞作曲、ギターをはじめ多種多彩。

エフエム諫早は、2000年1月1日の開局以来、長崎県央地域をエリアとするコミュニティFM局として、県央3市の各行政機関の広報、同地域で開催される各種イベント情報、天気予報、生活情報など、身近で役に立つ様々な情報を発信されています。その他、各種番組の企画制作・CM制作・司会進行・アナウンス業務等も行われています。

会員の皆様も取締役、スポンサー、パーソナリティー等々関わられており、諫早支部もスポンサーとして名を連ねています。

太田さんは、なんと平日7時から10時の生放送をはじめ、5番組を担当。パーソナリティーとしてだけでなく、取材はもちろん、局長としての局内全般の仕事も超多忙な中、同友会も要の例会委員長としてたいへんご尽力いただいています。

【エフエム諫早への道…】

太田さんは、学生時代に音楽活動を通して、同じ宮崎出身で、当時は長崎で活動されていた師と仰ぐAさんと出逢います。そのAさんから誘われたのが長崎に来たきっかけです。大学卒業後Aさんと同じ事務所に所属し活動の続け、FM諫早で30分番組を持つ等、順風満帆に活躍の幅を広げていました。しかし、訳あってフリーに。

歌の先生を始め「音楽活動を続けながら何かできれば…」と思う日々が続く中、担当番組が終了していたエフエム諫早にあいさつに。それから半年後、2時間の番組に声をかけてもらいました。



パーソナリティーの一人であった太田さんに局長就任の話が舞い込んだのは突然のことでした。「局長職」は、前局長が家庭の事情で退職後空席だったのです。しばらく悩んだものの、エフエム諫早への『恩義』に応えようと、「自分にできることがあるはず！」と局長就任を決断されました。

【太田さんの思い】

太田さんが常に心掛けていることは、「常に笑顔で！」言葉は言霊と表現されるように、その時の心境が伝わるのだそうです。顔が見えないからこそ、マイクの前では笑顔でさわやかに話すようにされているそうです。そしてその先にあるのは、「地域活性化！」。

目標は、散歩中に「エフエムの太田さ～ん！」と声をかけてもらうことだそうです。地域に密着した活動の続け、地域を盛り上げていきたいと熱く語られました。

今回、取材させていただくなかで、太田さんがたいへん『縁』を大切にされていることと、地域に対する深い思いを持たれていることに敬服しました。

お忙しい中、本当にありがとうございました。

<企業理念>

「市民参加による市民のための放送局」

<会社概要>

(株)エフエム諫早 諫早市宇都町29-1
TEL：0957-27-0771 FAX：0957-27-0840
愛称は「レインボーエフエム」（由来は、周波数が77.1MHz（ナナイロ）であることから）

スマホでラジオを聴けることをご存知でしたか？
まだの方は、すぐアプリをダウンロードしてみてください！

(文責 事務局 山田 幸司)

8月理事会 報告

8月1日(木) つくば倶楽部 出席22名 欠席10名

開会あいさつ (抜粋) - 金井代表理事

先日の県下一斉仲間づくりの日の開催、ダイバーシティ委員会例会、長崎浦上支部での条例関連の例会など、大きな盛り上がりを見せています。確実に認知度が高くなってきていると実感します。今後ますますの発展に向け、本日も様々なご意見をよろしく願います。

仲間づくりについて

- 1) 入会・復会・交代・退会の承認について(敬称略)
-入会16名、復会1名、交代1名、退会4名を承認
- 2) 仲間づくりの進捗状況・具体的活動状況について
・山領担当副代表理事 総括
今回各支部で活動し、仲間づくりの日が根付いてきたのではないかと実感する。佐世保支部も多数の協力者がいてよかった。毎日は難しいと思うのでこのような山場をつくって活動するという意識が大事。あらためて仲間づくりを進めていきましょう。

※第1回の最優秀支部賞およびスポンサー賞の表彰
最優秀支部賞…佐世保支部
スポンサー賞 第1位…宮崎会員(大村支部)
第2位…松尾慶会員(佐世保支部)
第3位…菅原会員(長崎出島支部)

・金井代表理事
先日五島で仲間づくり委員会が開催されたが、全支部からの参加があり活気を感じた。仲間づくりの日当日もライングループにて情報共有がなされ、頼もしく感じた。今回の成果は16名だったが残りの2回も期待したい。今回かなりの方が関わり、動いたと思う。同友会の良さを蒔いた結果、成果はきっとでると思う。他の委員会もよろしく願います。

協議・承認事項

- 1) 経営フォーラムについて-平湯実行委員長・廣谷副実行委員長
→来賓対応について実行委員会案(一部三役修正)を承認
- 2) 会員研修会について-山領担当副代表理事
(今回提案)
①報告テーマ ②報告要旨 ③ディスカッションテーマ
④案内用紙
→上記案を承認
- 3) 活動活性対策費 申請について
①4委員会より-中同協 専門委員会対応費の提案
→三役会案を承認。今後予算化も含めて検討する
②例会委員会より-表彰制度の提案
→三役会案に「単月最大出席率賞」を加えを承認。賞の内容に関しては再度委員会で検討し提案する
- 4) 2022年「人を生かす経営全国交流会」の誘致について-金井代表理事
→人を生かす経営全国交流会を誘致することを承認
(三役会案)
・「人を生かす経営全国交流会」は9月頃に開催
・経営フォーラムの設営担当順を2021年度(島原支部)と2022年度(五島支部)を入れ替えて、島原で11月14

日頃に開催。

→交流会誘致の承認を受け、上記三役会案について、9月ごろに開催する方向性を承認。経営フォーラムの順番に関しては島原、五島両支部とも一度持ち帰り検討する。

5) 事務局体制について-山口専務理事

大島局員 正局員採用承認について
→満場一致で承認。

報告・連絡事項

- 1) 7月 県本部・支部・委員会等の活動状況について
《委員会等》

例会	<p>22日(月) 19時00分～ シーハットおおむら 出席者9名</p> <p>1、各支部6月例会の「評価・検証」報告 *）テーマは大事。ディスカッション時間（全国大会や支部例会）によって、抽象的なテーマでよいのか、具体的なテーマが良いのかを判断する必要がある。支部のレジュメでディスカッションのところも細かくタイムスケジュールが記載しているところがあり、それを真似るのもあり。各支部のレジュメを来月見比べる。各支部の例会日程を極力ブロックでずらす。そのため事前にすり合わせをする。</p> <p>2、五島支部より提案 ・例会出席率の表彰を支部ごとで行ってはどうか？ どのようなものを表彰の対象にするのか？ 前年の出席率に対しての伸び率。対象期間で一番出席率がよかったところ。単月を対象にして、一番出席率がよかったところ。など</p>
経労	<p>(1)今年度の活動方針 「経営労働委員会の活動を全支部に拡大し、活発化する」</p> <p>(2)具体的な活動について 2-1 「経営者塾」の開催 2-2 経営指針実践セミナー（第3期）の開催 2-3 県委員会と支部委員会活動の活発化</p> <p>(今回の活動) 2-1 「経営者塾」の開催 ⇒ 印刷準備中 2-2 「経営指針実践セミナー」の開催 ⇒7/20 第1回開催 参加者12名/申込み14名でスタート 2-3 県委員会と支部委員会活動の活発化 ⇒7/10 大村支部委員会参加/6/21、7/22 諫早支部経営理念の作成に参加</p>
共育	<p>行事名：長崎県中小企業家同友会 2019年度第一回 新入社員フォローアップ研修 日時：7月27日(土)13:00～16:00 会場：諫早市社会福祉会館</p>
政策	<p>■7/4(木)～5(金) 中同協50th総会参加@京王プラザホテル 第1分科会においてグループ長を務めた。総会においては中同協50年の節目の年にあたり、これから始まる新時代の同友会運動の道筋について確認できた。</p> <p>■7/8(月) 大分同友会日田支部 大村市中小企業振興会議の事例視察@大村市役所 長崎支研第12分科会において先進的事例として紹介した大村市中小企業振興会議の実態調査のために行政職員を引き連れて来県。県委員長・生野大村支部長ほかで対応。</p>

